

第3章 計画の基本方針

3-1 都市の概況の整理

本市は、名古屋から約30kmの距離、岐阜県南部に位置し、産業都市あるいは観光都市として、中部地方における政治・経済・文化などの主要都市となっています。

市域を北東から南西にわたって清流長良川が貫流し、市中心部の河畔には山頂に岐阜城をたたえる金華山（標高329m）がそびえています。また、市の北部から東部にかけて平野部を取り囲むように、百ヶ峰等の丘陵性の山々が連なるなど、自然環境に恵まれています。

一方、市域の多くは木曾、長良、揖斐の3大河川によってできた肥よくな沖積平野が占め、その大半は、金華山の西側を中心とした市街地を形成しています。

市街地内の緑として、城下町として発展した中心部では社寺境内林など歴史的な緑が多く分布していますが、柳ヶ瀬から岐阜駅周辺にかけての中心商業地などにはまとまった緑はほとんど見られない状況です。一方、長良川北側などの周辺部では土地区画整理事業などによる良好な市街地が形成され、住区基幹公園などがバランスよく配置されています。さらにその外側の郊外部は、主に集落が連なって形成される市街地であり、農地を中心とする緑が多く存在するものの、市街地としての基盤が整備されていないところが多いため、公園は非常に少ない状況になっています。

3-2 基本理念

本計画の基本理念は、緑の持つ様々な機能や本市の緑に関する課題などを踏まえ、以下のように設定します。

《計画の基本理念》

本市は、岐阜県南部に位置しており、長良川をはじめとする大小の河川による水と市街地から眺望できる金華山、百ヶ峰等の山の緑につつまれ恵まれた自然環境にあり、岐阜城、加納城等の史跡、古いまちなみなど歴史的な遺産も多く残されています。

一方、本市は県庁所在都市であり、中部地方における政治・経済・文化の中核としての発展が期待されています。

また、「緑」は、地球温暖化の防止、都市防災性の向上など様々な機能を持っています。

こうした状況を踏まえて、本市においては、

- ①長良川、金華山に代表される恵まれた自然の緑や歴史・文化の緑を後世に引き継いでいくとともに、
- ②県都にふさわしい賑わいと魅力を演出する緑の創出や、
- ③市民の生活環境を支える緑の量的・質的向上を、
- ④市民と行政が一体となって進めていくことにより、「潤いのある快適な都市空間の形成」を目指します。

3-3 緑の将来像

緑の将来像は、緑に関する本市の特性を踏まえ、以下のように設定します。

《緑の将来像》

長良川の清流と金華山や市街地を取り囲む山々の緑など豊かな自然環境の保全・活用を図りながら、市街地の緑を増進することにより、潤いのある快適な都市空間の形成を目指し、

『清流と深緑の山々に恵まれ

緑とともに暮らす快適都市・岐阜』

をテーマに、緑の保全・整備を展開します。

また、このテーマの実現に向けて、計画の基本理念にも述べたとおり、次の3つを計画の柱とします。

【計画の3つの柱】

- 長良川、金華山に代表される自然、歴史・文化の緑の継承
- 県都にふさわしい賑わいと魅力を演出する緑の創出
- 市民の生活環境を支える緑の量的・質的向上



3-4 計画の基本方針

(1) 長良川、金華山に代表される自然、歴史・文化の緑の継承

清流長良川と山頂に岐阜城をたたえる金華山の風景は、本市のシンボルともいえる、かけがえない財産であり、本市の緑の骨格として保全し、後世に着実に継承していきます。

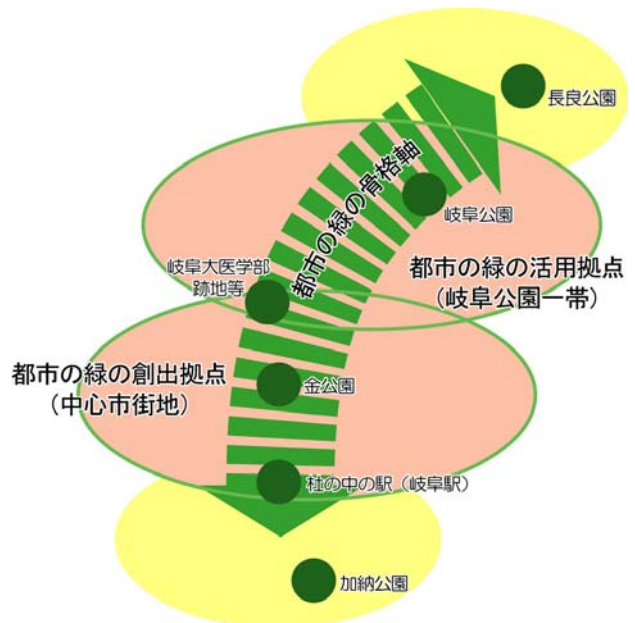
さらに市域には、百々ヶ峰をはじめ市街地背後の山並みを形成する森林や、伊自良川、境川などの河川、郊外部に広がる農地など自然の緑が豊かに存在し、環境保全や災害防止などに重要な役割を果たすとともに地域固有の景観を構成しています。また、社寺境内林など歴史・文化を伝える緑も都市や地域の個性を彩る重要な緑といえます。そのため、これら現存する緑について適切な保全に努めるとともに、自然や歴史・文化とふれあう地域資源として活用を図ります。

(2) 県都にふさわしい賑わいと魅力を演出する緑の創出

新たな都市構造への再編に向け、中心市街地やその周辺の環境をより快適にし、賑わいや魅力を創出することが極めて重要な課題です。緑は、魅力的なまちなみ景観の創出のほか、都市型気候の緩和や防災安全性の確保などにおいても非常に重要な役割を果たすことから、まちなか居住を推進する上でも緑を増やしていくことはとても大切です。

本市中心部は、柳ヶ瀬から岐阜駅周辺にかけての“中心市街地”から、市役所をはじめ公共施設が集積するエリア、観光の拠点的地区としての“岐阜公園一帯”と、主要なエリアが金華山の西側に沿って南北に連なっています。これらの主要なエリアは、現在建築物の更新が進むなどリニューアルの時期を迎えており、これらと一体的に官民協働で緑を積極的に増やしていくことにより、緑豊かなまちなみが南北に連なり、県都にふさわしい賑わいと魅力を演出する『都市の緑の骨格軸』の形成を図ります。

■ 県都にふさわしい緑の創出の概念図



これを具現化するために、まず、エリアごとの特性に配慮し、中心市街地を『都市の緑の創出拠点』、岐阜公園一帯を『都市の緑の活用拠点』と位置づけて、それぞれの個性と魅力を際立たせる緑化を推進します。

さらに、「都市の緑の骨格軸」形成の柱として、岐阜公園、杜の中の駅（岐阜駅）など主要な公園緑地を街路樹や河川・水路などで結ぶことにより、水と緑のネットワークを面的に形成し、周辺住民や来街者、観光客など多様な人々が多様な目的でまちなか歩きなどを

楽しめる空間の演出を図ります。また、このネットワークの起終点として、北はガーデニングやイルミネーションイベントなどで広く親しまれる長良公園を、南は国指定史跡である加納城跡を擁し歴史文化の薫り高い加納公園を位置づけて、それぞれの特徴を活かながら、公園自体の魅力向上とともに、周辺市街地の緑化を進めます。

● 中心市街地（柳ヶ瀬から岐阜駅周辺）〔都市の緑の創出拠点〕

柳ヶ瀬から岐阜駅周辺にかけての中心市街地では、その活性化への取組が全市的な課題となっており、現在、岐阜駅北口駅前広場の整備や市街地再開発事業の展開などにより、県都としてふさわしいまちなみが形成されつつあります。

しかしながら、緑の視点からは、金華山の緑が市街地の背景として絶大な存在感を示しているものの、市街地内に目を向けると、緑は決して十分な状況にあるとはいえません。

そのため、より多くの人々が訪れ、働き、住んでみたくなるような中心市街地づくりを進める中で、できるだけ多くの緑を、道路、公園などの公共空間のみならず民有地においても増やしていきます。

● 岐阜公園一帯〔都市の緑の活用拠点〕

長良川の鵜飼いはじめ観光都市としての基盤を支える清流長良川や金華山の緑の保全とともに、市民や観光者などが長良川、金華山の自然や城下町の歴史・文化に間近でふれあい、親しみや安らぎを感じられるよう、長良川プロムナードや岐阜公園、金華山登山道などの整備・充実、及び歴史的まちなみと調和した緑化などを進めます。

(3) 市民の生活環境を支える緑の量的・質的向上

市民の生活環境を支える緑として、都市公園などの整備・充実を図るとともに、市民・事業者・環境保全団体・行政の協働により、都市内の緑の増進を図ります。

● 緑地拠点となる大規模な都市公園の整備・充実

岐阜ファミリーパーク、岐阜メモリアルセンター、境川緑道公園などの大規模な都市公園は、本格的な競技スポーツや自然体験の場などとして、広大な敷地が確保できる郊外部などで整備を進めてきました。今後は、市民の多様なレクリエーションニーズへの対応や、災害時の防災活動拠点としての機能強化など、施設の充実を図ります。

● 地域の身近な公園緑地の整備・充実

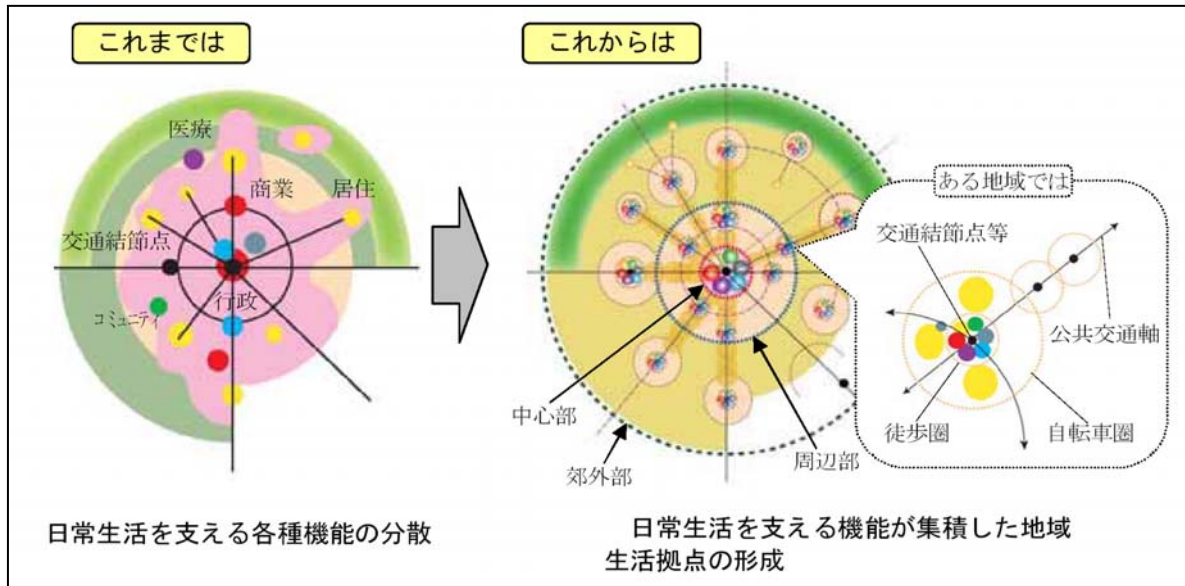
岐阜市総合計画の目指す“多様な地域核のある都市”を具現化するため、岐阜市都市計画マスタープランでは、市域を中心部、周辺部、郊外部に区分し、それぞれの特性を考慮した市街地形成を進めるとともに、周辺部、郊外部では、日常生活に必要な機能の集積を図る区域として地域生活拠点の形成を図ることとしています。

街区公園など地域の身近な公園緑地の整備にあたっては、こうした将来目指すべき都市構造との整合に配慮しながら、住民と行政の協働のもと地域のまちづくりを考える中で、公園の重要性や整備の優先度などを見極める視点が必要になります。

このような点を踏まえ、周辺部、郊外部においては、地域生活拠点を形成するうえでその生活環境を支える公園緑地が不足している場合に、優先的に新たな公園緑地の整備を行っていくこととします。

また、既存の公園緑地をより有効に活用するため、地域のニーズ、防災、ユニバーサルデザインなどに配慮したりリニューアルや、公園緑地間を結ぶネットワーク形成などにより、地域の快適な生活環境づくりを進めます。

地域生活拠点の形成イメージ



<地域生活拠点の定義>

周辺部、郊外部において、地域生活圏での集約拠点として、日常生活に必要な機能の集積を図る区域を想定する。(基本的には徒歩で移動可能な範囲を想定し、概ね半径 500mの範囲)

出典：岐阜市都市計画マスタープラン

(4) 市全域にわたる水と緑のネットワークの形成

都市レベルでの水と緑のネットワークの主軸として、緑の骨格である長良川のほか、本市の緑地拠点となる大規模な都市公園などを結ぶ伊自良川、境川などの主要な河川を「主なネットワーク軸」と位置づけます。

また、地域レベルでは、これら主軸との連携を考慮しながら、地域生活拠点などのまちづくりと一体的に、幹線道路や中小河川などの地域資源を活かしたネットワーク形成を図ります。

なお、水と緑のネットワーク形成にあたっては、避難路や延焼防止帯としての防災機能や、ビオトープネットワークなど環境保全機能など緑をネットワークすることによる多様な機能の充実に配慮します。

■ 緑の概念図

